



MILANO 2015

MILANO EXPO 2015 オフィシャル・ロゴ

発行日 平成27年2月10日

発行者

富山・ミラノデザイン交流倶楽部

高岡市オフィスパーク 5

公益社団法人富山県デザイン協会内

TEL.0766-63-7140

執筆 池田美雪 * ミラノ在住

いよいよ、今年の5月1日よりExpo Milano 2015(2015年ミラノ国際博覧会)が開催される。2008年3月31日、パリ国際博覧会事務局本部にて行なわれた投票により、もう一方の立候補地トルコ・イズミールを86対65票で破り、ミラノが博覧会開催地として決定、それから約7年に渡り準備を進めてきた。待ちに待ったイベントの始まりである。

開催期間は5月1日より10月31日までの184日間、入場者数2000万人を想定し、ロー国際展示会場に隣接する110ヘクタールの本会場へ145ヶ国が参加する。

テーマは「Nutrire il Pianeta, Energia per la Vita (地球に食料を、生命にエネルギーを)」。このテーマには食糧に関するすべての問題が含まれており、昨今の地球人口の増大に伴う食料確保と貧困・飢餓の問題から食育や食の安全・安心の確保、また、水資源の枯渇や気候変動の問題まで多岐に渡り、世界的な食料や農業の問題に対する解決の方法を各国が示していく理念想定型の国際博覧会である。また、食糧と栄養をテーマにしたイベントの中では、史上最大規模とみなされている。

ミラノで国際万国博覧会が開催されるのは1906年以降2回目となる。

開催期間中は、ミラノ市内外でアートや音楽のイベント、シンポジウム、ワークショップ、エキシビジョンなど創造性豊かなプログラムが数多く予定されている。

イタリア政府観光局(ENIT)公式サイトはこちらからご覧下さい <http://visititaly.jp/expo-milano-2015>



エキスポ会場とその周辺の俯瞰図

世界が融合する島 - エキスポ会場

エキスポ会場は、ミラノ北西に位置するロー国際展示会場から東方向に約1km離れた敷地に建設され、各国パビリオンが設置される会場の中に2つのマクロ・テーマである「CLUSTER(集合)」と「AREA TEMATICHE(テーマごとの展示)」を点在させる形で全体が構成される。

CLUSTERは、ミラノ・エキスポ独自の企画であるが、来場者がメインとなる体験型の展示をコンセプトに、発展途上の国々がテーマを共有する9つのグループに分かれて参加する。テーマは「米」「カカオ」「コーヒー」「果物と豆類」「香辛料」「穀類と塊茎」「有機・地中海・美・健康」「島・海・食糧」「乾燥地帯の農業と食糧」。各国のパビリオンとこれらの展示スペースを融合的に設置することで、来場者たちが自然な動線の流れの中で来場できるよう工夫されており、これによりエキスポの主旨をより深めてもらうことを目的としている。

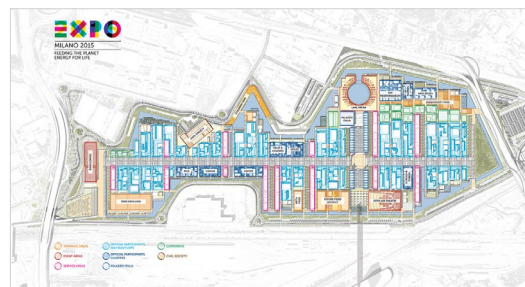
AREA TEMATICHEは、「PADIGLIONE ZERO - ゼロ・パビリオン」「FUTURE FOOD DISTRICT - 未来フード地区」「CHILDREN PARK - 子供たちの公園」「PARCO DELLA BIODIVERSITA' - 生物学的多様性の公園」「ART&FOOD - アートとフード」の5つのテーマ・エリアから成り、来場者がマルチメディアやインタラクティブな展示を介して能動的な見学を可能とする展示スペースである。

PADIGLIONE ZEROは、エキスポ会場のエントランスに設置され、イントロデュース的な役割を持つ。キュレーターは2003年より2011年までミラノ・トリエンナーレの会長を務めたアーティストDavide Rampello、空間デザインはデザイナーMichele De Lucchiが手がける。劇的な演出を介して、人類が培ってきた食糧の歴史とこれからの地球の未来に対する考察を促すことをコンセプトとしている。FUTURE FOOD DISTRICTは、すべての食物連鎖のプロセスに起用できうる最新のテクノロジーのシミュレーションを展示。CHILDREN PARKは、子供たちがゲームや遊びを行ないながら環境支援を学べる場となる。PARCO DELLA BIODIVERSITA'は、ミラノ大学農業科学・食糧学科が発案した、広い庭を歩きながら地球上に生息する豊かな生物学的多様性を観察するという主旨のプロジェクト。ART&FOODでは、第一回ロンドン万国博覧会が開催された1851年以降に制作された絵画・彫刻、ビデオやインスタレーション、写真と広告グラフィック、デザインと映画に到るすべてのアート領域で、食物と芸術の関係を探っていく。

ミラノ・エキスポ2015オフィシャルサイト
<http://www.expo2015.org/en>

こちらのリンクよりエキスポ会場のヴァーチャルツアーをお楽しみ下さい
<http://virtual.expo2015.org>

エキスポ会場の建設現場の状況はこちらからご覧下さい
<http://www.expocantiere.expo2015.org/en>



エキスポ会場



地中海の丘から望むエキスポ会場、イメージ画像



CLUSTER展示空間、イメージ画像



CLUSTER展示空間、イメージ画像



AREA TEMATICHE展示エリア、イメージ画像

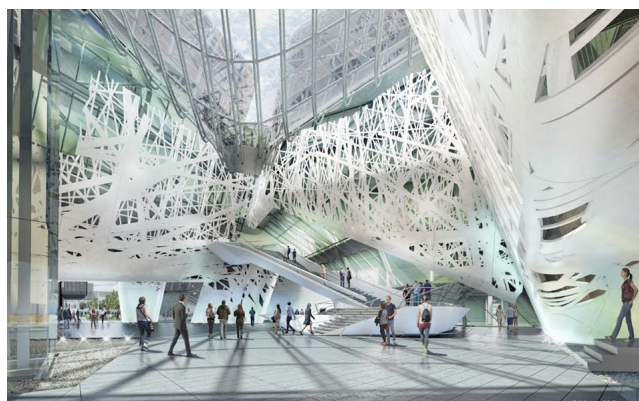
エキスポ会場は、古代ローマ軍の要塞CASTRUM LATINOよりインスピレーションを得て設計された東西南北へ十字に交わる2本の大通りにより展開されている。

北のイタリア館から南のオープンエア・シアターまでをつなぐ南北の大通りはCARDOと呼ばれ、この通り沿いにはイタリア館とイタリアに関連した展示が並ぶ。また、入場口に相当するエキスポセンターから地中海の丘に向かって東西に伸びる大通りはDECUMANOと呼ばれ、ここに日本館をはじめとする全ての参加国のパビリオンが配置される。会場の周囲は運河に囲まれ、エキスポ会場がまるで大きな島の様相を呈し、独特の景観をつくり出す。

透明な森 – イタリア館

イタリア政府が主催するイタリア館は、会場の2つのメインストリートの内の1つ、CARDOの北の出発点「水の広場」に面して設置される。唯一この建物はエキスポが終了した後にも保存され、最新テクノロジー・センターとして市民サービスの拠点に利用される予定である。

イタリア館の設計を担うのは、世界各国から68の建築事務所が参加した国際コンペにより2013年4月に選ばれたローマの建築事務所Studio Nemese&Partners。「風景的な建築」をコンセプトとし、「透明性」「エネルギー」「水」「自然」をキーワードに、樹々と森を彷彿させる空間構成により「感動」を促し、有機的な構造においては「環境支援」を考え、各空間相互でエネルギー交換が成される「テクノロジー」を駆使したプロジェクトである。6階建ての4つの建物の中心に設置される大きな広場は来場者を歓待し、その空間はまるでガラスの樹々に覆われた空間を彷彿させ、また、最上階にはエキスポ会場を一望できるテラスが設けられている。



イタリア館のエントランスホール、イメージ画像

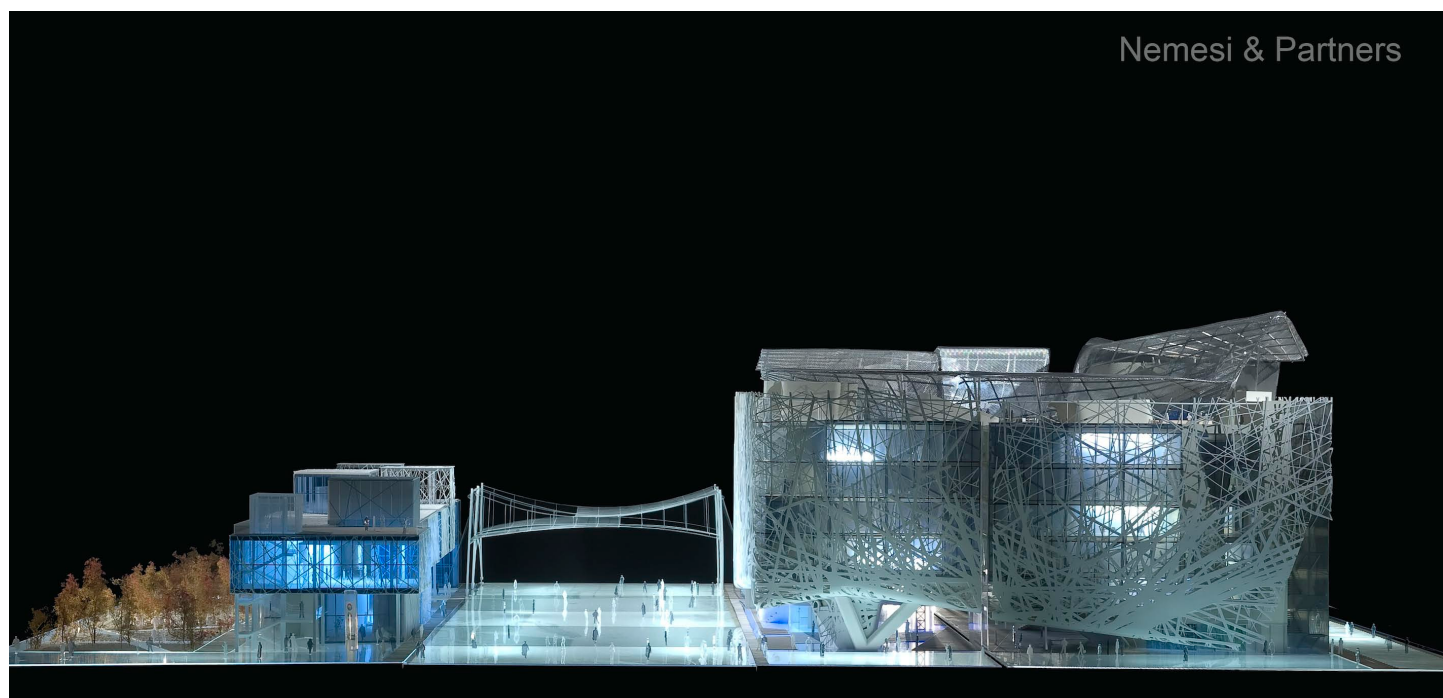


ITALIA
EXPO MILANO 2015

イタリア館のシンボルマーク



エキスポ会場内、イタリア館の位置



イタリア館の建築模型

Nemese & Partners

イタリア館のテーマは、「VIVAIO(植木畑)」。肥えた土地で小さな苗を育てるごとく、国内で活動を行なう若いエネルギーへチャンスを与え、才能を芽吹かせることをコンセプトにしている。パビリオンではMADE IN ITALYを全面に押し出し、州単位の参加にこだわらず、あらゆる形で数多くのデザイン関連の展示・イベントが企画されている。

イタリア館とそれに続くCARDIOに添った展示エリアでは、食材と製品のハイクオリティに特徴付けられたイタリアの食物に関連する文化と伝統の素晴らしさを明示し、また、イタリアとヨーロッパ各国との緊密な関係を展示していく。

こちらのリンクよりイタリア館を紹介するビデオをご覧ください http://youtu.be/r_Xf6eI7VIU

Studio Nemesi&Partnersのサイトより、イタリア館の詳細をご覧ください
<http://www.nemesistudio.it/en/projects/type/culture/item/714-italy-pavilion-expo-2015,-milan.html>

人と自然の共生 – 日本館

日本館はDECUMANOの東端に設置され、パビリオンの敷地総面積は参加国最大の4,170平米。日本館建築プロデューサーは、国内外で幅広く活躍されている東京芸術大学教授建築家北川原温氏。昨年6月にはミラノ中心部にて、北川原教授とのメディア懇話会および日本館についての概要説明会が開かれた。

日本館の出展テーマは「Harmonious Diversity – 共存する多様性」。このテーマは、日本人が自然と共生する多様な農林水産業を礎に、米を主食とし、うま味や発酵技術を活用しつつ、魚介類や野菜など様々な「食」を享受してきた歴史を踏まえ、自然の叡智を謙虚に取り入れながら、高度な伝統工芸技術・職人技を食器や調理器具・食空間にまで反映させ豊かな食文化を築き上げてきたことにより、日本食や日本食文化に詰め込まれた様々な知恵や技が人類共通の課題解決に貢献するとともに、多様で持続可能な未来の共生社会を切り拓く可能性を秘めていることを意味している。サブメッセージは「いただきます、ごちそうさま、もったいない、おすそわけの日本精神が世界を救う」。

日本館のシンボルマークは、両端が細い日本独特の「祝い箸」をモチーフにし、お箸が連なった形はEXPOの「E」を形作ると同時に「おすそわけ」の精神を表現。それは世界の人々が「食」をテーマにつながることも意味している。



日本館のシンボルマーク



日本館完成予想図



エキスポ会場内、日本館の位置



日本館俯瞰図

日本館の外周は、ミラノ・エキスポのキーワードの一つである「持続可能性(サステナビリティ)」を体現する建築素材として、日本の卓越した伝統的木造建築を現代建築に応用した「立体木格子」を採用。日本の四季・自然・生態系・食など、多様性の原点を表す立体木格子は、「多様性を抱くうつわ」としての日本館を形づくる。

法隆寺に代表される木造建築技術は、東日本大震災によっても倒壊しなかった五重塔のように、数百年から千年といった長い年月に耐えられる「生きた建築」と呼ぶことができる。継手・仕口といった木同士のめり込み作用により成り立ち、金物を一切使わず、粘り強く耐震性に優れた構造体である。「立体木格子」による構造体は、伝統的木造建築の木組みの知恵と、木材の「めり込み作用」の解析・応用という現代の技術によって初めて実現する、まさに日本の伝統文化と先端技術の融合による革新的な手法であり、今回の国際博覧会で世界で初めてこの3次元の木格子が実現される。

木材は、岩手県産のカラマツを主に日本より船で運搬され、イタリアに到着後に相決り(あいじゃくり)の加工を施し、4～5ヶ月かけて組み立てが行なわれる。

日本は国土の70%が森林という環境条件の中、木の活用と人々の暮らしが密接に結びつく木づかいの精神を育んできた。再生可能資源である木材の活用が森林の整備保全につながり、森林が養分豊富な水を涵養し、その水が大地や海洋に還元されることにより多様な食材が育まれる、といった理想的な循環型社会は江戸時代まで続いた。このような「人の生活」「里山」「山」の循環が自然との共生を可能にしていたが、対する現代社会では人の生活と自然は対立関係にあり、そのことが地球規模の食の問題を発生させたと考えられる。



木材の活用による、循環型社会のイメージ



立体木格子

立体格子の構造は、実用的な側面においては日中は外部の光を適度に遮断し、また夜間は淡い光でライトアップされることで複雑な陰影を闇夜に放ち、日本的な演出効果をもたらす。

建物は2階建て構造。1階は展示ゾーン、展示のテーマは「自然と共生」「共存」「調和」。2階にはレストランとイベント広場が設けられ、日本食の楽しさや世界に誇る食の技術などを紹介するフードコートや、日本産食材を活用した日本食レストランが設置され、また、イベント会場では都道府県の参加による食に関するさまざまな日本の知恵と技や伝統文化をアピールするイベントが展開される。

日本館についての詳細はこちらのリンクをご覧ください

<http://www.expo2015.jp>

<http://www.expo2015.org/en/participants/countries/japan>

<https://www.facebook.com/expo2015.jp?fref=ts>

ミラノ・エキスポ参加国の一覧はこちらのリンクよりご覧ください

<http://www.expo2015.org/en/participants/countries>

LAKE ARENAとOPEN AIR THEATER

エキスポ会場は運河に囲まれた1つの大きな「島」を連想させるが、これはミラノ・エキスポのテーマと密接に繋がる「水」という要素の重要性と、運河が人々の生活を支えてきたミラノの歴史を表現しているといえる。

これらを象徴するのがCARDOの北端に設置されるLAKE ARENAである。ここに流れてくる水は、18世紀の終わりにエンジニアVilloresiが設計し、現存するイタリア最長の人口水路である灌漑水路Villoresiから引かれる。直径90mの噴水池の中心には「生命の樹」が据えられ、水と音と光のショーを繰り広げる予定である。また、このゾーンは、3千の観客席が設置され計2万人を収容することができるイベント・スペースとして想定されている。

対してCARDOの南端には、1万1千人を収容できるOPEN AIR THEATERが設置され、コンサートや劇、セレモニーなどが連日予定されている。観客席は階段式のベンチ席とそれに続く芝生、シアターの屋根にはソーラーパネルを用い、あくまでも再生可能な電気エネルギーを使用する計画である。

その他、DECUMANOの東端に設けられた12mの高さのCOLLINA MEDITERRANEA(地中海の丘)に上れば、来場者は丘からエキスポ会場の全貌を見渡すことができる。地中海に生息する典型的な植物に覆われた丘の上へゆるやかなスロープを歩いて上り、日照時間が長い開催期間のロマンチックな夕べを楽しめる仕掛けになっている。



LAKE ARENA、イメージ画像



噴水池の中心となる「生命の樹」、イメージ画像

LAKE ARENAの詳細はこちらのリンクよりご覧下さい

<http://www.expo2015.org/en/explore/exhibition-site/lake-arena>

OPEN AIR THEATERの詳細はこちらのリンクよりご覧下さい

<http://www.expo2015.org/en/sito-espositivo/open-air-theater>

SOCIETA' CIVILE – ミラノの歴史的酪農家屋「CASCINA TRIULZA」

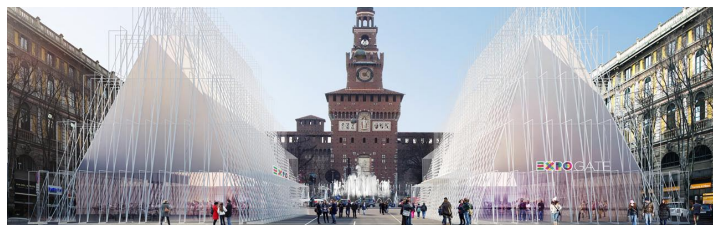
ミラノの歴史的遺産である酪農家屋「CASCINA TRIULZA」は、エキスポ建設予定地に唯一存在していた建物だが、エキスポ開催にあたりパビリオンの1つとして活用されることとなった。14世紀以前に建てられたこのミラノの典型的な酪農家屋は、多方面から集まった62の協会・団体を抱えるTRIULZA財団が運営しており、エキスポを前に改築を終え、「SOCIETA' CIVILE(市民社会)」の名の下、国内外から来場者を迎える。

敷地内では、エキシビジョン、シンポジウム、ワークショップ、オフィスシェアリング、市場など、世界中から集まる第三セクターが交流する中で共にチャンスをつかめるようにと、多くの企画が予定されている。

今年1月末、これらのイベントをプロモートし参加者を募る目的で、ミラノ市スフォルツェスコ城正面に設置されたEXPO GATEにて、5日間にわたるイベントが開催された。EXPO GATEは、ミラノ・エキスポへ緩やかに誘導する情報発信源として、昨年5月より市民に開放されているエキスポのサテラिट的な施設である。SOCIETA' CIVILEの主催により連日行なわれたイベントでは、35歳以下の新進アーティストやデザイナーたちに焦点が向けられ、彼らのイタリア館への参加が促された。



SOCIETA' CIVILEパビリオン、イメージ画像



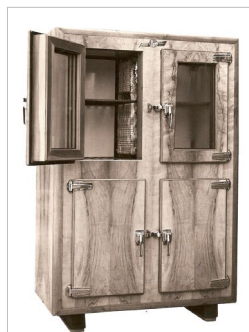
スフォルツェスコ城正面に設けられた、EXPO GATE

アートと食の関係を考える旅 – “Cucina & Ultracorpi”

エキスポ会場内のテーマ・エリアの1つであるART&FOODは、本会場と連動した形でミラノ・トリエンナーレをサテライト会場とし、4月10日(ミラノ・サローネの開催初日)から11月1日まで開催される。タイトルはCucina&Ultracorpi(キッチンとスーパーボディ)。

これまでイタリアン・デザインを様々な切り口で企画してきたデザイン・ミュージアムの第8回目のエキシビジョンとして、建物内部とオープンエアを合わせて7千平米の展示敷地が設けられる。キュレーターは世界的に活躍する芸術評論家Germano Celant、会場デザインは建築家Italo Rotaが担う。食とアートの関係を検証するというコンセプトをベースに、人と食物の関わり方、調理器具、晚餐、ピクニックあるいはバーやレストラン、旅先、機内、宇宙空間などでの食事方法の変遷、また、食空間の設計やそのプレゼンテーションの方法など、かなりマニアックなテーマもあり、射程範囲は広範囲にわたる。

これらのテーマは、アーティストや映画製作者、グラフィックデザイナー、音楽家、写真家、建築家、デザイナーたちが1851年以降に制作した作品を通して伝えられる。世界中の美術館、プライベート・コレクション、アーティストたちから提供された無数の作品を前にし、ミラノ・エキスポのテーマ「地球に栄養を、生命にエネルギーを」を、芸術的視点から反芻するタイムトリップとなることであろう。



1851年以降に制作された、「アートと食の関係」を証言する作品の数々。

FOOD DESIGN MANIFESTO - ADI

エキスポを前に、様々な団体が「食」にフォーカスを当てテーマを掘り下げている。恵まれた自然環境の中、豊かな食生活が標準化しているイタリアでは、なぜ今更？という感もないではない。しかし、ミラノが国際的に注目を浴びる今、今一度国際的視点からイタリアン・フードを見直してみよう、という動きである。

工業デザイン協会ADIは、昨年12月ロンバルディア州本庁にて、Food Design Manifestoと題し、今後デザインの領域として捉えられるFood Designの定義10か条と、ADIが主催する国際デザイン・コンクールCompasso d'Oroへ新しいセクション「Design for Food and Nutrition(食と栄養のためのデザイン)」を加えることを発表した。ADI会長Luciano Galimbertiは、「デザインは全ての要素の集合を明確に表現するという課題を持つと我々は信じている。我々は創造力と食分野のネットワークを作り出したいと願っている。そのためにFood Design Manifestoは考案され、第一回Food Design賞が誕生した」と語る。

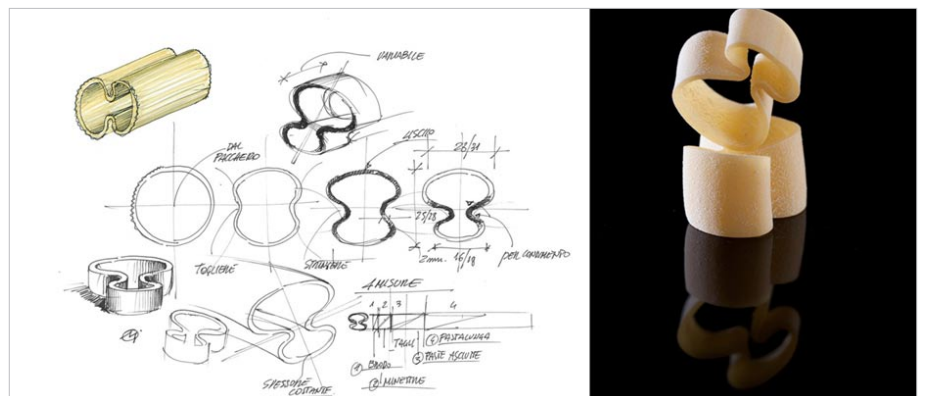
定義によれば、Food Designとは、「ユーザーの要求に適した方法で設計されかつ充足された食に関係する活動の考案であり、食用、コミュニケーション、パッケージ、および食品の販売と消費に関連するサービスと空間を含む」。

10の定義は、1)食分野のプロジェクトであること 2)明確な背景の中での食の有用性に対して、効果的な解決案を創出する具体的な領域をもつプロジェクトであること 3)インターフェイスおよび製品が消費される背景に対し最適な方法のサービス形態を提案していること 4)製品あるいはサービスが連続性を伴った製造を可能にすることは、プロジェクトがFood Designと定義される条件である 5)食用に関するプロジェクトがFood Designと定義される条件として「人数分量が計れること」「モジュール性を持つこと」「環境と消費に使用されるツールに適した形を持つこと」 6)Food Designと見なされるプロジェクトは、特定の必要性を要求する単独あるいは複数のユーザーへのサービスを提供する、あるいはプロジェクトを起因とするツールを介して食に関係する行動の効果を高めることで実現されなければならない 7)Food Designは、標準的なデザイン方法に従って設計されることを意味する 8)Food Designは、ワインと食事に関連する遺産を介して、地域の価値を向上させ推進する為の特権的かつ特殊なツールの1つである 9)Food Designのプロジェクトは、栄養と関連するという特徴により、ソーシャル・デザインの領域に入ることも可能であり、公共団体あるいは非営利団体との共同作業を予測することができる 10)Food Designの製品は、ユーザーに対する有益が生じることのみが目的であり、全てのプロセスは、ユーザーが不良設計、あるいは保存規格・製造技術・人間工学・食品に関連した細菌学に対する不注意から発生するリスクにさらされることを抑制するよう、相互に作用されなければならない。

以上のこと細かい定義が発信されたことは大きな驚きだが、これまで曖昧だった食とデザインの関係性を明瞭にし、またこれをADIが主導していくことで、今後この分野に注がれる創造力が更に高まっていくに違いない。



FOOD DESIGN MANIFESTOのロゴマーク



2014年5月、第23回コンパッソ・ドーロ、フードデザイン部門で受賞した MAURO OLIVIERIデザインの Pasta。

Expo Village - Cascina Merlata

エキスポ会場と高速道路を挟んで南側に隣接するCascina Merlata地区。不動産会社EuroMilanoにより2012年からこの地区の再開発が行なわれている。11棟の個性豊かなタワーマンションは計397の住居が予定され、エキスポ開催期間中はこの内7棟へエキスポ関係者が滞在できるよう、現在建設が進められている。最新テクノロジーの導入による環境保全、再生可能なエネルギーを利用し、地区全体のCO2排気量ゼロを目標としている。

マンションの内装デザインの企画設計は、Luisa Collina教授が指揮をとるミラノ工科大学デザイン学科のチームに委ねられた。EuroMilanoがミラノ工科大学へ依頼した内装デザインについてのリサーチは、過去に開催されたエキスポやオリンピックなどで期間中に設けられた「村」について行なわれた。リサーチは単なる記録の検証にとどまらず、2012年のロンドン・オリンピックで実際に村に滞在した人々へのインタビューなどを行ない、文化・宗教・言語が異なるエキスポ関係の滞在者がくつろいで共に生活する為に必要な要素は何か、を見出した。

リサーチの結果、Expo Village内装デザインのキーワードとして、「テンポラリー」「インフォーマル」「エコ支援」「Made in Italy」「形態美」「素材選択」「変換性」「フレキシブル」「再生素材」「再利用可能家具と再生可能素材」「解体可能」「ローコスト」が浮上。

内装デザインの基本的条件として、住居が使用される期間が2つに分かれること、1つはエキスポ開催期間、もう1つは開催終了後住居が購入されて以降。

これらの条件を総合し、内装はニュートラルで再利用が可能であり、また色彩とアイデンティティを備えたインテリア小物によってまとめられる、というコンセプトが決定された。家具と小物のデザインを若手デザイナーに委ねることとなり、AAAdesignercercasi(デザイナー募集)と題したコンペが開かれ、優秀作品10点が制作される予定である。



CASCINA MERLATA開発地区のイメージ画像



EXPO VILLAGEの内装デザインとして実現される若手デザイナーのプロジェクト。

TAVOLI TEMATICI - ミラノ商工会議所

2010年、ミラノ商工会議所はミラノ国際博覧会の好機を前に商業と起業システムの活性化を目的とした、スタート・アップを支援するTAVOLI TEMATICIを開設した。プロジェクトのカテゴリーは「ホスピタリティ」「女性起業家」「エネルギーと環境」「酪農業」「健康」「アートと文化」「ボランティア」「若者と就業」に区分され、現在まで300を超える創造力豊かで個性的なプロジェクトの応募が寄せられている。全ての応募プロジェクトへはTAVOLI TEMATICIに後援される証しであるロゴの使用が許可される他、一方的な資金援助が与えられるのではなく、デジタル・プラットフォームによるプロモーションをベースにした支援が行なわれる。

TAVOLI TEMATICIのオフィシャル・サイトは、カテゴリー毎にプロジェクトの具体的な紹介を行ない、また商工会議所で開かれる数々のイベントのアナウンスと共に、ツイッター、フェイスブック、グーグルなどのソーシャル・ネットワークを活用しながら幅広いレンジで働きかけ、シナジー効果によってプロジェクトの存在をより多くの人に伝えることを試みている。



TAVOLI TEMATICIの認証



応募プロジェクトの一例。
イタリア国内に自生する野草をプロモートするアソシエーション「Wood*ing」。



応募プロジェクトの一例。
ミラノ・エキスポへ参加する発展途上国や団体へ空間デザインのコンサルタントを行なう、プロの建築家から構成された非営利団体「CONNEXPO」。

イタリア国内外で、ミラノ・エキスポに向けた発案やアクションが数えきれないほど行なわれています。
紙面では数えるほどしか紹介できませんでしたが、文中に記載されたサイトのリンクからいろいろなページを開いて頂き、エキスポ前の興奮を少しでも味わって頂ければ幸いです。
文中のリンクをクリックするとサイトが開きます。

執筆者 略歴

池田美雪 インテリアデザイナー

武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒
Istituto Europeo di Design 建築インテリア科卒
1994年よりミラノ在住
主に個人邸の改築、パブリックスペースの設計に携わる
設計外に携わったプロジェクトとして
”do it jubunde”展(無印良品、ニコレッタ・ブランズィとのコラボレーション)を企画ならび実現
”Soundesign”展(Marangoniファッションスクール主催)にて弦楽器”Caravantar”を発表
写真雑誌”ZOOM”日本版のコーディネート、翻訳 など
”TuPlay”展にてグラス楽器”FASOLA”を発表
「Bicarbonato : mille usi per te e la tua casa」執筆 (FAG出版社より)
(イタリアの生活に密着した重曹の活用方法を書き綴った本)
”B.A.C.”展(City Art ギャラリー)にて、インスタレーション”Ma.Ma.Ma”を発表
”Made in Bovisa“(Bodio小学校の子供たちとのプロジェクト)を起案、コーディネート

クリエイティブ・コンサルティング会社(デジタルゲーム、ウェブサイト、グラフィックデザイン)の共同経営者として活動
デザイン・アートに関するコーディネート、翻訳および通訳
日本とイタリアの文化交流を推進するデザイン・プロジェクト”stu-art”コーディネイター